

# WOODY VALLEY MODEL HARNESS MANUAL X-OVER3



## 危険・警告

- 1) 安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。
- 2) 本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。
- 3) 本ハーネス改善の為、予告なしに仕様、金額を変更する場合があります。

## (株) SPORTS OPA KITE

東京：〒101 東京都千代田区神田小川町3-24-15-3F

TEL 03-3291-0802

茨城：〒315-01 茨城県石岡市大増1900

TEL 0299-44-3642 FAX 0299-44-3939

## はじめに

この度は、WOODY VALLEY MODELハーネスをお買い上げいただきありがとうございます。  
ございます。

クロスオーバーハーネスは空気抵抗・コントロール性・安定性を重視したハーネスです。  
著しく空気抵抗を減少させることにより、グライダーの滑空性能を飛躍的に向上させ、高  
いウエイトコントロール性能と安定性で、快適なフライトを生み出します。バックプロテ  
クターに170mmのエアーソフトを使用、オプションでサイドプロテクターを装備する  
ことも可能です。

なお、ハーネスを正しくお使いになるために使用上の注意、及び使用方法を正しく理解し  
た上でご使用ください。ご不明な点は、販売店、または、スポーツオーパカイトまでご連  
絡ください。

### 使用上の注意

- 1) このハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的には使用しないで  
ください。
- 2) 本ハーネスの適正技能は、JHFの定めるP証以上の技能を有するパイロットを基  
準といたします。
- 3) 本ハーネスを始めて使用する場合は、地上で十分にシミュレーションとセッティ  
ングを行い、十分に乗りこなしたグライダーを使用し、安定した大気のもとでフラ  
イトして下さい。

### 標準装備

- 1) 170mmエアーソフトプロテクター
- 2) パラシュートトグル
- 3) リラックスバー

### ハーネス保管・取り扱い

- 1) 保管場所は、高温多湿および直射日光の当たる場所を避けてください。
- 2) ハーネスをつけたまま座ったり、重いものを乗せたりしないでください。
- 3) 汚れた場合は、ぬらしたタオル等で拭き取って下さい。汚れがひどい場合は、中性  
洗剤を水で薄めてつけ、柔らかいブラシ等で、叩き出すように落して下さい。
- 4) 海水に浸かった場合は、塩分を真水で洗い流し、陰干しして下さい。直射日光の下  
では乾かさなないでください。
- 5) PGバックに収納時は、ハーネスの収納スペースのチャックを開けた状態で、ふた  
の部分を収納スペースに押し込め、成形プレートを上方向に引っ張り上げ、肩方向  
に曲げ、収納して下さい。
- 6) パラシュートコンテナは紫外線や湿気からパラシュートを保護するように2重構造  
となっていますが、ウエイティングの際などはできるだけパラシュート面を上にして、日  
陰などに置いてください。

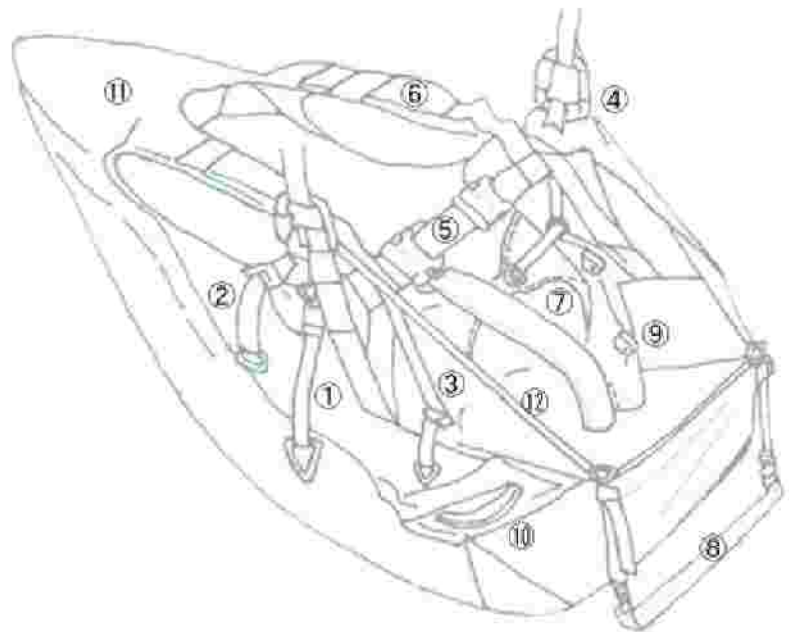
## ハーネス保守点検

ハーネスに使用している素材は、すべて消耗品です。以下に示す保守点検を、必ず月に一度は確実に行い、フライト前のプレフライトチェックも必ず実行して下さい。

- 1) すべてのベルト・生地に傷・ほつれ・切れ・摩耗等がないか
- 2) すべての金属・プロテクターに傷・緩み・錆・破損・ひび割れなどがないか
- 3) 外部・内部から見て縫製に切れ・縫いほつれ等がないか、その他にも異常が発見されたときには使用を中止して下さい。
- 4) 2年に一度はカラビナの買い替えをお勧めします。

## 各部の名称

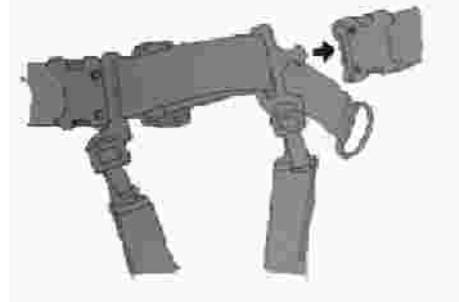
- 1) シート調整ベルト
- 2) サイドベルト
- 3) レッグアングル調整ベルト
- 4) フックポイント
- 5) 胸ベルト (GET UP)
- 6) 肩ベルト
- 8) リラックスバー
- 9) アクセルプーリー
- 10) パラシュートコンテナ
- 11) 収納スペース
- 12) リラックスバーベルト



## GET UP

WOODY VALLEY社 全モデルにこのGETUPが標準装備されています。GETUPではパイロットによるミスを抑える事とハーネスの脱着を容易にします。このGETUPでは僅か2箇所を止めるだけで、メインベルトを確実に止める事が出来ます。

カチッと音がするまで  
しっかりとはめ込んでください！



## 取り扱い方法・調整方法

### リラックスバーシステム

リラックスバーベルトをカラビナ位置から取る事によって、バーを踏み込んだ際に非常に高い安定を得る事が出来ます。このシステムでは直接、ライザーを下方方向に押さえつける働きをします。

リラックスバーの調整は、足をほぼまっすぐに伸ばした状態で、腰がしっかりとハーネスに密着している状態で、リラックスバーを踏み込んだ際にしっかりとテンションが掛かる様に長さの調整をしてください。踏み込んだ際にパイロットのCGがハーネス内で前後にずれる場合や、足を伸ばしてもテンションが掛からない場合は、フットバーの効果は期待できません。

フットバーを踏み込むと、カラビナに連動しているベルトが引かれ、肩ベルトも張るためにハーネスがより安定し、揺れが少なくなります。グライド時や、センタリング中、旋回を安定させたい時などに使用してください。

旋回中に内側を強く踏む事によって、しっかりと体重移動している状態をKEEPできます。

また、常に張っている状態で使用すると、体重が入りづらくなる場合もありますので注意してください。

フットバーを使用した際に極端に体が寝たり、足が上がってしまったりするようなハーネスセッティングは避けてください。安定性が悪くなり、ヨーイングが出やすくなります。

### サイドベルト

あらかじめシミュレーターなどで調整を行って下さい。通常のスタンダードハーネスと同じように視界が良好で、軽く後ろに腰掛けた程度の姿勢をお勧めします。

目安としては、リラックスした状態でハーネスに腰掛けた時、パイロットの肩くらいの位置でカラビナの高さを合わせて下さい。

絞め過ぎ、緩め過ぎはウエイトシフトのしやすさや、安定性に影響してきます。また、フライト中に姿勢を調整する場合は、必ず片方のベルトから調整を行って下さい。両方を同時に緩めると急激に後ろに倒れ込み、全解放状態になり易いので十分注意して下さい。

### シートアングル調整ベルト

シートを深くすれば、重心が下がるために安定します。ですが、ウエイトシフトは若干やりづらくなります。また、シートを浅くすれば、重心が高くなるために不安定になりますが、ウエイトシフトはやり易くなります。調整方法としては、シミュレーターでハーネスに腰掛け、全体重を自然にハーネスに乗せる様にして、両側のシート調整ベルトの金具を開放し、自然に下がった位置から、極端に浅くならない程度で、ご自分のフライトスタイル、腰に隙間が出来ないように合わせて調整をしてください。

## レッグアングル調整ベルト

シート調整ベルト、サイドベルト同様にパイロットのフライト中の角度を調整します。主に腰から足にかけての角度の調整を行い、足下がりや、足上がりはこのベルトで調整しますが、補助的な微調整と考えてください。全体的なアングルセティングはサイドベルト、シートアングルで行います。

リラックスバーを踏み込んだ状態、踏んでいない状態の2ポジションで安定が得られるようにセッティングしてください。

特に足下がりの状態で、腰が浮いているようなセッティングではレッグアングルベルトに必要な以上のテンションが掛かり、プラスチックパーツを破損する事になりますので、十分にご注意ください。また、メインベルトがたるむような締めすぎも破損の原因にもなり、非常に危険です。

## 足ベルト (GET UP)

足ベルトは、ハーネスをつけて立っている状態で窮屈過ぎず、フライト中にゆる過ぎない程度に調節してください。足ベルトを極端に締めても、セミクロスの効果はありませんので、必要以上に締めすぎないように注意してください。

緩めすぎでは、テイクオフ直後に座りなおしが難しくなります。

## 胸ベルト (GET UP)

胸ベルトを締める事により安定性が高まりますが、ウエイトシフトが効きづらくなります。X-OVERはコントロール性が高い為、完全に絞めた状態でもウエイトシフトは容易に行えます。胸ベルトの調整は、カラビナの間隔がグライダーテスト時を大きく逸脱しないように、38cm~42cmの間で調整されることをお勧めします。

## 肩ベルト

腰掛けた状態で軽く張る程度での調整をお勧めします。肩ベルトを絞める事により安定が増しますが、若干ウエイトシフトがしづらくなります。逆に緩めすぎるとウエイトシフトはやり易くなりますが、安定は悪くなります。

通常は軽く張った状態で大気が不安定になった時に、肩ベルトを肩で押し上げるようにしてテンションを掛けてあげると安定度が高まります。フットバーとも併せて調整するようにしてください。

カチッと音がするまで  
しっかりとほめ込んでください！



## ワンタッチバックル

カチャッと音がするまで確実にはめ込んで下さい。  
衣服が挟まったり、砂などが詰まっていると確実に止まらない場合がありますので必ず確認下さい。

取外しの際には両脇のポッチを両方同時に押すと簡単にはずれます。

## アクセルプーリー

### 取り付け方法

サイドポケット内側に、アクセル用の穴が2箇所あります。  
グライダーから伸びるアクセルラインをサイドポケットからハーネスの内側に通し、プーリーを通してからハーネスの内側面を通りアクセルガイドを通してアクセルバーに取り付けします。

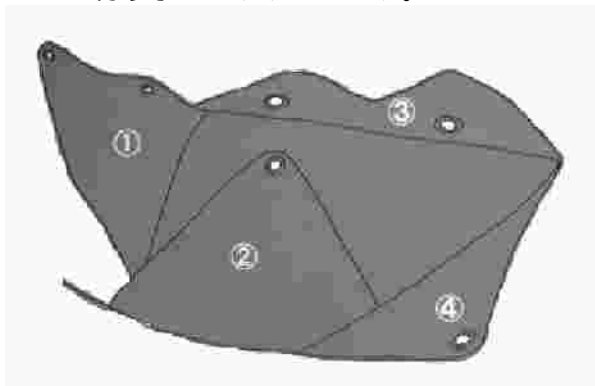
## パラシュート

緊急パラシュートのタブに付属の赤色のレスキュー用トグルを取り付け、ハーネス側のブライダルとパラシュート側のブライダルを接続します。(この時に必ずお互いのブライダルのセンターを確認して下さい。センターがずれていると開傘時にブライダルがセンター側へ移動し、摩擦熱と張力でどちらかのブライダルが切れる可能性があります。)

次にトグル面を上にして に付属のゴムを通して 、 、 、 の順でパラシュートをコンテナに収めセイフティーピンを止めて下さい。

その後、トグルをしっかりとベルクロに取り付けて、両端をネオプレーン部分に差し込んでください。

取り付け終了後は実際にシミュレーター等にぶら下がりパラシュートの位置・重さ・引き出し具合の確認や、トグルを握る練習をして下さい。実際に投げる動作までシミュレーションで行う事をお勧めします。(取り付け後、最低一回は必ず実際に引き出し、不具合がないか、また引き出しの際に引く方向・重さなどを確認下さい。)また、リパック時には上記のシミュレーションを行う事をおすすめします。



## フロントバラストバッグ(オプション)

フロントバラストバッグ(10リットル)がオプションで装備できます。給水の際には入り口を上に向けて給水して下さい。給水の途中で、ときどき空気を抜いて下さい。空気が入ると10リットル入らない場合があります。大量に空気が入るとフライト中に水が左右に移動するため、安定が悪くなる可能性があります。バラストの取り付けは、カラビナについている金属バックルで行います。また、目視しやすい位置にあるバラスト上部ベルクロ部分にバリオ、GPS等を取り付けることができます。更に、バラスト上部ポケットには無線や携帯電話を入れることもできます。フライト後、水を出したバラストバッグ内に、バリオ・GPS等を収納することも可能です。

また、バラスト用インナーバッグを取り外す事によって小物入れとしても利用できます。

## ハーネス調整の手順

最初にパラシュートを取り付け、・シートアングル調整ベルト・サイドベルト・肩ベルト・胸ベルト、足ベルトの順で調整を行います。調整の仕方については、各項目を参考にしてください。

シートポジションのセッティングを終えたところで、アクセルの調整を行います。

現在ご使用のパラグライダーに合わせて調整して下さい。

また、リラックスバーの先端付近に縫い付けられている赤色のタブを利用する事でリラックスバーとアクセルバーの絡みを防ぐ事ができ、フライト中のアクセルワークを容易にします。

次にフットバーを調整して下さい。

アクセル・フットバーの調整はご自分のフライトスタイルにより微調整して下さい。



### POINT

サイドベルトをきつく締めすぎるとフックポイント(カラビナ位置)を基点に上体が高くなり揺れの原因になります。これには、シートの深さも大きく影響してきます。シートアングルを浅く、サイドベルトをいっぱい締められた状態では特に揺れは大きくなります。上体を起こしたい場合には、シートアングルを深くして下さい。

肩ベルトがゆる過ぎると、同じように上体が揺れ、ハーネスの安定が悪くなります。

ハーネスを着て立った状態で、肩がきつく感じる場合には足ベルトを緩めてください。

上空では常に張っているようにセッティングしてください。

逆に不安定にしたい場合などは、ベルトセッティングを変えずに上体を少し起こして肩ベルトを緩める事でウエイトコントロールが楽に行えます。



Woody Valley Model